

なはーとダイアログとは

アーティストと観客や参加者が様々なことがらを一緒に話し合い、交流し、学び合う場所になることを目指すための企画です。

令和7年度は、「戦後」80年の節目において、これまでの沖縄の表現を振り返ることからはじめ、子育てとアーティスト活動について、「文化的生活」とまちづくりという幅広い話題を取り上げました。また、真和志高校での「おでかけダイアログ」も昨年引き続き開催しました。

なはーとは、これからも文化芸術の創造と鑑賞、継承と発展の場であるのみならず、元・久茂地小学校という立地の歴史をふまえて、劇場と地域をつなぐ対話のシリーズ、「なはーとダイアログ」を開催していきます。

あなたのご参加をお待ちしています！

なはーとダイアログは、より多くの方と対話の機会をつくれるよう、手話通訳とヒアリンググループ席をご用意しています。

※なはーと開催の場合。会場や企画によって異なる場合があります。



手話通訳あり



ヒアリンググループ席あり

那覇文化芸術劇場なはーと

〒900-0015
沖縄県那覇市久茂地3-26-27
TEL：098-861-7810
FAX：098-861-7870

開館時間：9時～22時（受付19時まで）
休館日：毎月第1・3月曜日（祝日又は慰霊の日は開館、直後の祝日でない日休館）
年末年始（12月29日～1月3日）

主催：那覇市
企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと株式会社さびら
フライヤーデザイン：トグチナオ
フライヤー写真提供：上地萌
記録写真：北上奈生子、上地萌
記録映像：福地リコ、中谷駿吾

「なはーとダイアログ」の最新情報はウェブサイト・SNSでチェック！

なはーとウェブサイト
<https://www.nahart.jp/>



なはーとInstagram
@nahart2021



なはーとダイアログ Instagram
@nahartdialogue



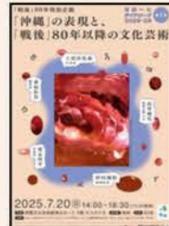
写真：北上奈生子

なはーとダイアログ

開催レポート



第1回 「沖縄」の表現と、「戦後」80年以降の文化芸術



「戦後」80年のあいだ、「沖縄」はどのように表現され、またどのような表現を生み出してきたのか？また、それぞれが考えるこれからの課題や可能性について、写真、演劇、琉球芸能、映画、小説の各分野の視点でお話いただきました。

各ゲストのこれまでに影響を受けた作品や表現について振り返り、世代が近いゲストならではの共感や相談もなされました。また、「沖縄の人だから」とまなざされること、「自分」の表現と伝統、リサーチと創作についての話にまで広がりました。

創作と伝統芸能の対比、演じることと、物語を立ち上げること、見せ方の違いや類似性などのお話興味深い回となりました。

参加者の声

- 沖縄をめぐる作品に取り組むアーティストの方の自分自身の位置や今、土地との関係などを聞いてとてもおもしろかったです（20代、那覇市）
- 表現する方々は日々頭の中で色々な言葉でものごとを考えていると実感しました。映像や踊りや小説や写真などの作品の裏には、たくさんの言葉であふれていて、お一人おひとりの話の表現に言葉の大切さを感じました（50代、那覇市）



2025年 7月 20日（金）開催



上原沙也加
写真家



兼島拓也
劇作家



高里風花
琉球芸能立方



豊永浩平
小説家



仲村颯悟
映画監督

第2回 アーティストと考える、きらきらしてない子育ての話 ケア労働と創作活動は両立できるのか？



現在子どもを育てながらアーティスト活動を続ける3人のゲストを中心に、文化芸術を支える仕事に携わる あるいは一とスタッフも交え、出産や子育ての経験と表現活動の両立について検討しました。

社会や施設における経験の戸惑いや違和感は、アーティストではなくても共感するものであったと同時に、子育てをする人に関わる立場の人びとにとっても示唆的なものでした。

また、仕事を続ける上での制度についての提案や、事例、「子育てを社会化する方法」などの方法論についても様々なヒントが提示されました。

参加者の声

- 結婚と出産、女性の主体性が悩むポイントとして出てくるのが気づきでした。まだ親にもなっておらず結婚もしていない中で、周囲への子育ての理解を深めたいと思いました（30代、那覇市）
- 会社員だったらそもそもあきらめてしまうことも、アート活動をしているみなさんだからこそ思考停止にならない、問いたくなるものが生まれるのでは？と思いました。（30代、那覇市）



2025年 9月 24日（水）開催



新垣七奈
演出家・俳優

兼島拓也
劇作家



福地リコ
映画監督・ライター

第3回 「戦後」80年 戦後80年、那覇市長と語り合う『文化的な生活』とは？

「戦後」80年 特別企画 戦後80年、那覇市長と語り合う



「文化的な生活」とは？という大きな問いをきっかけに、文化芸術事業を支援する上地さん、フルート奏者でありながら、企画プロデュースも行う渡久地さんと、市長を交えて、これからの那覇市における「文化的な生活」について考えました。

上地さんからは時間をかけて育つ文化芸術の種を、いかに育てていけるのかというヒント、渡久地さんからは、那覇市からもたくさんのアーティストが生まれていることや、ウィーンでの事例などをご紹介いただきました。

渡久地さんの企画したコンサートにも出席されていた市長からは、じっくり音楽に向き合う時間こそが価値だったという感想も。これからの「文化的権利」を基本に文化芸術活動に積極的に取り組むことを確認しました。

参加者の声

- 文化芸術分野の人だけでなく、市長を交えての対話の場というのがとてもおもしろかったです。（30代、那覇市）
- 文化的な生活を送る私たち市民の話を知りたい、という質問にうんうんとなりました。専門家ももっと自身をもって、生き生きと語る事が必要なとおもいました（40代、那覇市）



2025年 11月 15日（土）開催

論点提供

上地里佳

沖縄県文化芸術振興会
チーフプログラムオフィサー



論点提供

渡久地圭

一般社団法人
ビューローダンケ代表



コメント

知念覚

那覇市長



第4回 アーティストと話してみよう これからのアート、キャリア、そして人生2026



昨年に引き続き、沖縄県立真和志高校を会場とした「おでかけダイアログ」。イラスト、陶芸、ギャラリー運営、伝統工芸と現代アートなど、ジャンルの異なる県内出身アーティストをお迎えし、間近でお話を聞く形式で実施しました。

最初は全員でゲストの自己紹介と作品紹介を聞き、その後質問に答えてもらいました。後半はそれぞれのゲストと生徒たちのグループに分かれ、制作や仕事についてのリアルなお話を聞きました。

それぞれの創作に関する情熱や、好きなことを続けるコツや大切さ、学校や仕事と生活の兼ね合いなど、先輩アーティストから未来のアーティストへ経験を伝える、有意義な回になりました。

参加者の声

- とても楽しかったです。アーティストにも色々な経歴があったんだなと思いました。これからの考える材料になりました。
- どのアーティストさんも自分が大切にしている事やアーティストという職業について高校生に分かりやすいように丁寧に説明していて、とても分かりやすかったです！



2026年 2月 6日（金）開催



イラストレーター
デザイナー
ヨナハアヤ



陶芸する地質マニア
須藤祥太郎



イラストレーター
ギャラリー運営
ASKART



現代アーティスト
漆工房・前田貝揃案代表
前田彬